

VOL. 14
SEPTEMBER
2022

News Letter

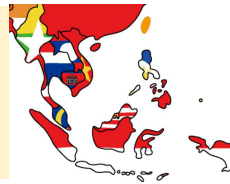
宇都宮大学国際学部・国際学研究科
同窓会東南アジア支部

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は
同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。
東南アジアをこよなく愛する同窓生のネットワーク再構築を
目指し2017年9月よりニュースレターを発行しています。
このニュースレターが 一人でも多くの同窓生に届き
ネットワーク が広がっていくことを切に願っています。

CONTENTS

1. ご挨拶
2. お知らせ
3. 活動報告
4. 支部創立5周年記念特別企画
5. トコロ変われば★談会（第7回）
6. タイの昨今（第14回）
7. 狙え！インスタ映え!？（第10回）
8. とともに感じる東南アジア（第10回）

表紙写真)祖先供養10億円！？天まで届け！
(タイ・プーケットにて)



1 ごあいさつ

お陰様で、東南アジア支部は創設5周年を迎えました。
これもひとえに支部メンバー皆様のご協力はもとより、
このニュースレターを楽しみにしてくれている方々の存在が
あってこそと、心より感謝申し上げます。今後も同窓生同士の
ネットワークを維持し、さらに開拓していけるよう、活動を続
けていきたいと思ひます。今後も「東南アジア愛」を皆さんに
届けていきますので、応援の程宜しく願ひいたします。
(東南アジア支部事務局 大畑美優紀/タイ在住)

3 活動報告

柴田さん歓迎会 & 宇タイ会新年度会開催

6月3日(金) タイ・バンコクにてタイ在住同窓生参加のもと、柴田さん歓迎会及
びタイ在住者同窓会(宇タイ会)新年度会を開催しました。前回の開催から約1年
3ヶ月。久々の顔合わせの中楽しいひと時を過ごすことができました。柴田さん
におかれましては、タイでの生活が実りあるものとなりますよう、同窓生一同心
から応援しています。



写真)左から柴田さん、柴田さん息子さん、大宮さん息子さん、奥様、大宮さん、池内さん(農)、池内さん娘さん、
大部さん(工)大部さん娘さん、奥様、大畑さん

2-1 お知らせ

東南アジア支部新メンバーご紹介

昨年在タイ日本国大使館に赴任された、外務省職員の方の柴田友美子さんが
支部メンバーに仲間入りしてくれました！

W E L C O M E

柴田(佐々木) 友美子さん
2006年度入学
国際社会学科 / 重田研究室
宮城県出身/タイ在住

大好きなタイでの駐在が始まり
もうすぐ1年が経ちます。夫を日本
に残し、チビを連れてのタイ生活は
なかなかハードなことも多々ありま
すが、毎日タイで出会う皆様のナム
チャイ(優しさ)に支えられて過
しています。皆様これから宜しくお
願ひします。

2-2

番組放送のご案内

今号ニュースレター5ページ「狙え！インスタ映え!？」のコーナーで谷澤さんに投稿頂いた
インドネシアの「ゴミの山」の取材番組が、9月30日にNHKワールド「Asia Insight」にて、
日本語版は10月24日にBS1にて放送されますので、是非ご覧ください！詳しくはこちらから↓

- ▶ 9月30日 : NHK WORLD <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/asiainsight/>
- ▶ 10月24日 : BS1 <https://www.nhk.jp/p/ts/DN1RPYLP7J/>

また、谷澤さんが最近制作された番組もご紹介いたします。こちら是非ご覧ください！

- ▶ 8月24日放送分 : Giving Bali's Waste New Life : <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/3021011/>
- ▶ 8月31日放送分 : Saving the "Sea Slaves" : <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/directtalk/20220831/2058942/>

国際学部教授吉田先生、元教授重田先生との懇親会開催



8月28日(日) タイ・バンコクにて国際学部吉田先生そして3月にご退官された
重田先生が来タイされ、国際学部同窓生との懇談会を開催しました。久々の先
生方の来タイは、コロナ禍でストップしていた大学関係者との交流再開の幕開
けを感じました。交換留学も再開されたとのことですので、今後同窓会として
は、留学生(現役宇大生)との交流も再開していきたいと思ひています。先生
方のまたの来タイを心より楽しみにしています。

写真)左から大畑さん、吉田先生、大宮さん、柴田さん、重田先生

初めて訪問した時の印象や思い出、そして自分の人生を動かした国はどこだったか？
支部メンバー13人があの頃に思いを馳せ、語ります

♡私を動かした東南アジアとの出会い♡

はじめてのVIETNAMとその後

中国から日帰り越境～通貨のゼロの多さにびっくり。みんなモスグリーンのヘルメットかぶってた。(田邊)

2002年 仕事にて～東南アジアの国として最初に微笑みの国タイを経験していたこともあり、いくらベトナムの中でも明るいと言われているホーチミンであっても共産主義の影の名残を感じてならなかった。ハノイに行けばなおさら、東南アジア人でこんなにも無愛想な人たちがいるのかと驚いた。(當真)

♡♡♡

最初に訪れたタイはもちろん多大な影響を与えてくれたと思いますが、その後仕事で住んだベトナム(ホーチミン、ハノイ)は政治的歴史背景がタイとは全く違い(占領、分断)、非常に興味深く感じました。違いを理解するのに非常に困難を期したこともありましたが、その後様々な国の人々と仕事をすることで、場所を欧州に移した後、再度世界を見渡してみると、日本やタイの常識や感覚が世界的に見て特別であり、世界中多くの国がベトナムのような価値観で回っているのだと知り、今現在複雑な国際社会事情を読み解くにおいて非常に貴重な滞在経験だったと感じています。欧米から見た世界情勢分析ではなく、意外にも？東南アジアから世界を眺める勉強が始まったことは自分にとっては非常に良いアプローチだったと、そのきっかけを作ってくれた大学に感謝です。(當真)

2018年 大学2年春、友人とホーチミン、ダナン、ホイアンへ旅行～初めて食べた本場のパインミーの美味しさが忘れられない。(駒形)

はじめてのBURUNEI



2001年 国際交流事業にて～お金持ちが多い。(藤井)

2005年 高校の頃、地図を見て、首都名が長い国、ブルネイ「バンダルスリバワン」とスリランカ「スリジャヤワルダナプラコッテ」に行きたいと思っていた。その夢を叶えるためブルネイに一人旅に出かけた～親切な人が多い、平和な国。夜、ライトアップされた街を見に行った時、不良風な(日本の不良っぽいファッションをしていた)お兄さんグループが車を私の前で停め声をかけてきた。からまれたらやばいと思ったら、夜出歩いている私を心配して、優しく注意してきたりだった。その後、宿泊先への帰り道を見守ってくれた。(小沼)

2014年 ASEAN会議取材にて～実に退屈な国。娯楽が全くない。酒を密かに持ち込むのが大変だった。(谷澤)

2019年 大学3年時マレーシアの留学ビザがなかなか取得できず、マレーシアの観光ビザを更新するため、ブルネイに1泊2日で旅行に行った～とにかく自然が豊か。7つ星ホテル エンパイアホテルの豪華さに驚いた。(駒形)

はじめてのINDONESIAとその後



1996年 高1年時、国際ロータリー1年交換学生としてジャカルタに滞在～留学仲間と1ヶ月間かけてジャワ島～バリ島～ロンボク島を訪れ、最終日に1人でデンパサール(バリ島)からジャカルタへ長距離バスで帰る際、渋滞やタイヤのパンクなどのトラブルに見舞われ、30時間かかった。(佐々木)

♡♡♡

大学入学後1年～2回はジャカルタやバリ島を訪れ、時には大学の友人たちも連れて行き、バリ舞踊を習ったりインドネシアの歴史に触れてみた。卒業や修論もインドネシア関連でした。社会人になってからは数年に1程度しか行けなくなりましたが、訪日したインドネシアの友人をもてなしたり、インドネシアの本を読みあさるなどして関係を保っていました。そして藤田和子先生のご紹介で執筆していたODA関連の原稿が、昨年、ついに書籍化されました。(佐々木)

2002年頃 観光にて～イスラム教徒の方は閉鎖的なのかと勝手に思い込んでいたが、親で優しく明るい人たちがいる印象を受けた。(知念)

観光にて～バリ島リゾート満喫。(柴田)

2001年 高3年時、現地校への短期留学～排気ガスの臭いと膾炙した食べ物の臭いが第一印象。そしてとにかくムダに楽観的でエネルギー感ある人たちに圧倒される。(谷澤)

♡♡♡

偶然、留学することになった割には、今も居住して深い関わりを持たざるを得ない国。政府や治安機関には痛目にあわされているが、市井のインドネシア人の明るさや人懐っこさには、いつも助けられている気分になる。若者を中心とする「明日は絶対に今日より良くなる」というポジティブな空気感に、日々助けられている。(谷澤)

2002年 3歳時、ビンタン島へ家族旅行～3歳だったので記憶がありません。(駒形)

2008年 国際交流事業にて。(藤井)

2009年頃 バリ島に旅行～テンペという謎の発酵食品が熱烈な思い出。(大宮)

2014年 出張(表面処理薬液の営業)で訪問～道路の渋滞がすごく毎朝5時出発していた。宿泊施設がインターネットホテルだったために快適だった。(平田)

1998年 ウボンラーチャターニーに隣接するラオスの市場に遊びに行った。～(地元民ルートで行った市場なので、今思えば正規の出入国ではなかった気が。)正規の入国であれば、同年、ビザ申請とラオス人の友達の家ホームステイするためビエンチャンに行った。市場:活気なさすぎ、ウボンとの差に驚いた。ビエンチャン:首都なのに赤茶の未舗装路だらけ。町に流れる音楽はタイの演歌。お菓子は中国ルートでたり着いた半年賞味期限切れのもの。タイの生活を謳歌していた頃に急遽ラオスに行ったので、初めてのラオスは正直良い思い出はなかった。(小沼)

♡♡♡

自分の人生を変えたのはタイですが、今までの人生の中で一番のイベントと言える「愛知万博」へと導いてくれたのはラオスなので、この質問の答えは「ラオス」だと思います。最初、印象が悪かったラオスですが、その後何度か旅行に行きとても好きになりました。転機は2004年です。当時タイ在住で、そろそろ日本に帰ろうか迷い始めていた頃、翌年開かれる愛知万博の途上国支援アテンダントの求人を見つけた。私はラオスに貢献する仕事をしたいたいと思い、応募。嬉しい事に合格。研修中、ラオス館で働くことを精一杯アピールしたつもりでしたが、派遣先はカンボジア館でした。しかし、万博開催中は毎日のようにラオス館に足を運び、ラオスコーナーを広めるお手伝いをしたり、バックヤードでラオスとおしゃべりしたり、とても充実した日々を送りました。万博後にラオスを旅行した後は、タイや中国に関わることをしていました。しかし、また転機が訪れました。2011年、会社がラオスとビジネスを始めてみようという方針を出し、私が担当になりました。6年越しに夢が叶いました。あれから11年、今でもラオスの仕事を続けています。(小沼)

2000年 貧乏旅行でタイから陸路で訪問～ビールが美味しく、ラフティングが豪快で楽しかった。(平田)



はじめてのSINGAPORE

90年代後半 勤務先の日本語学校の慰安旅行～当時は喫煙者だったのでたばこが吸えない恐怖を感じながら訪問。でも喫煙所はちゃんとあったような記憶がある。(田邊)

1998年 旅行にて～マレーシア同様、3+1文化共存、そしてこちらは中華勢力が権力を握っているということでマレーシアとの国の違いを感じた。(當真)

2001年 宇大国社の友人と観光でインドネシア(バリ島、ジャカルタ)へ行く途中に訪問～シンガポール到着が深夜だったため、空港のベンチで仮眠を取り、早朝から行動開始した。(佐々木)

2001年 バックパッカー旅行～きれいなだけでつまらない国だなと思った一方、この秩序の裏に何が有るのかと余計な心配。(谷澤)

はじめてのPHILIPPINES



1993年 高2年時、YMCAのスタディーツアーに参加～フィリピン人はギターを持てば歌いだし、踊りだし、陽気な人懐っこい性格で、ノリについていくのが必死だった(笑)ホームステイした先の朝食がバナナを蒸したものであったことが印象的だった。(大畑)

2001年 国際交流事業にて～車の窓を開けて走っていたら、喉を傷めてしまいました。ノリノリで踊り好きが多い。(藤井)

2000年 観光にて～首都ビエンチャンに行ったが、メイン通りに車も少なく、見かけるのは制服を着た軍人のような人ばかり。市場も活気がなく暗い雰囲気だった(後日市場で爆発事件があったことを知った)。打って変わってメコン川の対岸のタイ側からは、水遊びをするタイ人の活気あふれる姿や歓声が聞こえて不思議な感じがした。(大畑)

2002年頃 観光にて～食べ物美味しかった。学生時代だったのでタイより物価が安くて嬉しかった記憶が。(知念)

2002年 友人を訪ねて～あまり豊かな国ではないけど、人々の心は穏やか。(藤井)

2007年 大学1年の春～タイ～カンボジア～ベトナム～ラオスをバックパッカー。ラオスの首都ビエンチャンの街の小ささに驚き、人々の素直さに惹かれ、メコン川を2日間流されて人生を考えながらタイ国境へ移動した思い出。(柴田)

2009年頃 2回目のタイ訪問から、足を伸ばしてビエンチャン、バンビエンへ。～フランスパンサンドイッチとコーヒーが美味しかった。首都なのに車が多かった。(大宮)

2015年 ニュース番組ロケにて～タイ東北部とあまり代わらないのんびりした印象。そしてメンとビールがうまい。(谷澤)

大学の日本語専門家として～3年滞在。生まれて初めての首都赴任なのに、高いビルがない！一国の首都を流れる川の向いの町が外国であること。(田邊)

♡♡♡

そもそも最初に東南アジアに触れたのは1990年に訪問した中国の西双版纳(西双版纳, Sipsong Panna)だった。ラオスでは北部のルアンナムター周辺を旅してSipsong Pannaエリアに近づくことができた。(田邊)

2001年 国際交流事業にて～中華、インド、マレー等料理の種類が豊富。(藤井)

2002年 ビザ申請と旅行～空気がきれい、道がきれい、都会だけれど緑がきれい。(小沼)

2014年頃 観光にて～シンガポール とても清潔できれいな街。治安も良さそうと感じた。(知念)

2016年頃 友人を訪ねて～暑いのにゴミ臭なしの近代都市。インド人街のインド人集会は凄かった。(大宮)

2014年 出張(表面処理薬液の営業)で訪問～中華、シンガ料理が美味しかった。特にバクテー(豚の角煮)が絶品であった。英語が堪能で住みやすかったが、物価がめっちゃ高い印象。(平田)

2015年 高校2年時 家族でシンガポールへ旅行～物価が高いのが印象的だった。(駒形)

2018年 大学2年夏 友人とセブ島へ旅行。(駒形)



はじめてのMYANMARとその後

1998年 タイのメーホンソーとミャンマー国境にある町に遊びに行った～元々ミャンマーに留学したいという考えを持っていたので、ミャンマー入国は短時間でも嬉しかった。(小沼)

2004年 旅行にて～まだ強制両替の時期で同じ共産国の過去の歴史で語られていたことを実際経験することができ感慨深い中での入国でした。今まで行ったどの国よりもビジネス、文化共に暗い影と限られた自由の存在を感じて色々学んだ滞在だった。(眞真)

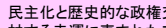
2007年 大学2年生夏休み、タイ留学の前にミャンマー旅行に行きました～民主化を求める僧侶たちのデモに遭遇、自由は当たり前なものではないと実感。今となっては、あの時行っておいて良かったと思う。(柴田)

2008年 タイのラノーン県から船に乗ってミャンマー南端のコータウンへ～住民の顔つきが多様なことに驚き、様々な文化が入り混じっていることに驚感。(大畑)

2012年頃 観光にて～まさに発展途上というイメージ。道路もぼこぼこで、埃が舞う街。人は優しく、シュエダゴン・パゴダ寺院は美しかった。(知念)

2012年 12月に1泊2日の旅行でタイから陸路で訪問～ミャンマー料理は油を大量に使用するために胸焼けがすごかった。偽物製品の品質がよかった。(平田)

2012年 ニュース番組ロケにて～軍政から一旦、開国し始めた時期で活気にあふれていた。ビールが安くうまい。多民族国家だけにメロも多様でうまい。(谷澤)



民主化と歴史的な政権交代の過程を取材する幸運に恵まれたことで、大好きになった国。民主化という大義のために人生をかけてきた友人たちが多く暮らす、非常に思い入れの深い国である。もっと地方を取材してその多様性を知りたいと思っていた矢先、軍事クーデターで何十年も昔にタイムスリップしてしまった。自分の立場で何ができるのか熟考する日々。(谷澤)

大学の日本語専門家として～生まれて初めての首都のような町ヤンゴンに赴任。邦人も多く首都のような生活を味わえた。街に漂うガビ(魚介の発酵ペースト)の香りが強烈。(田邊)



東部シャン高原を旅してSipsong Pannalに近づいた。また、このシャン州や北部カチン州では納豆が食べられる。2020年に再訪を予定していたがコロナの影響で断念。翌々21年にはクーデターが起き、同僚たちの生活も今は一変してしまった。(田邊)



はじめてのTHAILANDとその後

1991年 中国留学中に1か月ほど域外旅行～いわゆる自由主義国の空気をとても感じた。旅先で年配の人を中心に長期滞在日本人もよく見かけたが、全体的に中国で会う日本人よりアジア感じの人が多かった。でもやさしかった。(田邊)



Sipsong Pannaで出会ったタイ系民族の国ということで一度訪問してみたかった。中国から訪問してみると大丸や紀伊国屋があるなど先進国! ムエタイの音楽が気に入りカセットテープを買って帰った。東南アジアに一度住んでみたいと思いつきかけの国である。その後、ミャンマー赴任時代、ラオス赴任時代には何度か訪れたが、ラオスで骨折してウドンターニーに入院することになるとはいつとも思わなかった。(田邊)

1996年 大学2年の春～マリー先生と、マリー先生の「演習」授業を受講していた同級生と共に東北部(ウボンラチャターニ、北部(チェンマイ)を回った。ウボンで、食用ガエル、アリの卵というものを初めて見て驚愕した。バンコクからチェンマイへの寝台列車の旅は途中脱線事故で何時間も遅れたけど楽しかった。(大畑)



その後、大学2年の秋に1年間タイに留学する機会に恵まれ、何の違和感もなくどっぷりタイ人社会に浸かってしまいました。待ち合わせ時間1時間遅刻して行くのは当たり前(時間にルーズ)、雨が降ったら止むまで待つタイ人の姿(寛容)に最初こそは驚きましたが、結局のところ生活のリズム、食事で雰囲気など自分にマッチしていたんでしょうね。現在タイ定住16年目に突入です。(大畑)

1996年 高校2年時、1年間交換留学～日本の物がありふれている。親日。日本のことをたくさん知っている。ドンムアン空港から市内へ向かう高速で日系企業の看板がたくさんあり感動。物乞いからお金持ちまで街中で目にする貧富の差に衝撃を受ける。(知念)



学生の時に2度留学し、その後タイ王国大使館で働いたことは貴重な経験です。学生の頃に出会わなかったら間違いなく別の道を歩んでいました。現在は育児専念のため大きな関わりはありませんが、地域のボランティア活動などで国際交流事業の一部として関わることがあります。(知念)

1998年 大学2年時、1年間交換留学～留学の1年間はとにかく楽しかったの一言に尽きた。陽気で、優しく面倒見が良い、だらかなタイ人と学業、生活を共にし、自分がいい方向に変わっていくのが感じられた。(小沼)

1998年 大学2年時、NGO(幼い難民を考える会)の研修に参加～当初は水が合わなかったために毎日お腹を壊していた。最初は屋台のタイ料理が辛すぎて食べられなかった。(平田)



大学時代から繋がりがあり、日本で就職した際に途切れたが、再びタイと繋がりが駐在で8年バンコクに暮らし、たまたまタイ人とタイ語を話すとき懐かしい記憶が蘇る。コロナが収束したら旅行に行きたい。(平田)

1998年 大学3年時、大学のフィールドワークにて～無秩序な世界だが、物凄く活気がありポジティブなエナジーに漲っていた。日本も昔はこんな感じだったんだろうなあ、と祖父母の時代にタイムスリップしたような感じがして何ともスタルジックな印象だったことを覚えている。(眞真)



はじめてのTIMOR-LESTE

2006年 ニュース番組ロケにて～激しい暴動が発生していたので緊張していた。国連統治後でやたらと物価高の印象。(谷澤)

はじめてのCAMBODIA



1999年頃 タイのアランプラテートからポイペットの町に遊びに行った。タイとの治安の差を感じ、少し怖いという印象を持った。(小沼)

2001年 3月の卒業旅行でアンコールワットの観光～タイの国境から車でアンコールワットに入ったが、その道は深さ2mくらいの穴ばかりが多数あり、移動に恐ろしく時間がかかった。(平田)

2002年頃 観光にて～タイとの国境でストリートチルドレンが寄ってきたことに衝撃。まるでテレビで見ていた姿だった。チップをあげたい気持ちを我慢してしばらく貧困について考えさせられた。アンコールワットの美しさに圧倒された。(知念)

2002年 アンコールワット観光～下調べが不十分で、死にそうになりました。タイから陸路で移動して、国境の町ポイペートで高いお金を払ってピックアップトラックの荷台に載せられ、途中の経由地で2時間以上待たされ、未舗装の道路を80km/h以上で走られ、シェムリアップに着いたのは夜遅くでした。(藤井)

2006年 大学1年時、学生団体主催のスタディツアーに参加～中学生の頃から憧れていたアンコールワットにも参詣。当時の自分自身の「青さ」にベストマッチした良い経験だった。(柴田)

はじめてのMALAYSIAとその後



1998年 旅行にて～1国で3+1(モコンウェルス)文化共存を感じることができ、その中でもイスラム勢力が表の権力を握ってオペレーションして国がうまく回っていることが興味深かった。(眞真)

2002年 バックパッカー旅行にて～料理で気味のマレー料理に飽きても、インド料理や中華料理が安価で楽しめてお得な気分。(谷澤)

2002年 友人を訪ねて。(藤井)

2005年 日本に本帰国する前にタイ以外の国に行きたいと思い、一人旅をした～親切な人が多い、活気がある国。色んな人と触れ合うことができ楽しかった。(小沼)

2014年 出張(表面処理薬液の営業)で訪問～中華、マレーシア、インド、日本料理と多民族国家の料理がおいしかった。人も温和で優しく。(平田)

2016年頃 同期を訪ねにベナン島へ～華僑の文化を強く感じた。(大宮)

2019年 大学3年秋からボルネオ島のサラワク大学へ交換留学～同じ大学内なのに、寮から教室まで片道20分歩かなければならず、大学の大きさに圧倒された。(駒形)



ビザが帰国1か月前まで取得できなかったり、コロナの影響で滞在期間が6ヶ月に短縮など、留学中はイレギュラーなことが多かったですが、それを経験したおかげか、度胸が付いた気がします。また、マレーシア留学である程度英語力を伸ばせたことが、その後の職業選択に活きました。今はマレーシアとは関わりはありませんが、マレーシア留学は私の人生に大きな影響を与えたと感じています。(駒形)



大学でタイ語と出会ってから、タイ色学生生活。日本で就職してから、タイが常に頭から離れず、思い切ってタイへ生活の拠点を移してから、9年目。UNIQLDのTシャツを3年以上着ていてもオッケー、年中時間の流れが変わらず、土日もダラ～としているのが1番いいところでしょうか。日本帰国もたまに頭に散らつても、恐らく腐れ縁で戻ってきたくなるだろう。。(大宮)

2007年 大学1年生の春休み～ナムチャイのボランティアで行ったタイ～到着早々、マルアイホテルから見た赤くて大きな夕日、ホテルの前のパッタ屋さん、そこら中に大大大!あの感動、もう味わえません。(柴田)



タイ人の中に飛び込むのが苦手、タイ語も苦手な私がここまでタイと関わり続けているとは思っていませんでした。でも、タイ料理が好きで好きで、それだけではずっとプレッシャーにきています。今でも毎日ソムタム(青パパイヤサラダ)食べています。これから何かにつけてタイにはお世話になると思います。(柴田)

2018年 大学2年春、友人とバンコクへ旅行～タイ料理の辛さは衝撃的だった(座敷するほど辛かった...)。バスの床がまですべており、床の隙間から道路が見えたこと。(駒形)

東南アジアとの出会いは私たちの人生に彩を添えてくれましたね。あの頃の出会いを思い出し、また新たな関係を築いていきましょう!

Southeast Asia Regional Branch, Faculty of International studies & Graduate school of international studies Utsunomiya University Alumni association

5
連載
コーナー

第七回のお題は、こちら！

あなたの地域の“物価上昇”事情
(8月20日時点)

住まいの地域事情を語り合うコーナー

トコロ変われば
ザ★談会物価上昇感どうですか？
何がどれくらい上昇しましたか？物価上昇に対する国の対策や
福利厚生は？

ご自身の消費行動に変化は？

大宮さん●バンコク在住

Thailand

ガソリンの価格が2年前と比べ約2倍に上がりました。ガソリン価格の高騰を受けて、電気料金が引き上げられるとのこと。今年に入りスーパーでの買い物でも物価上昇を肌で感じようになりました。屋台のクイッティヤオも平均50パーツ、フードコートも70パーツと、以前より+10〜20パーツアップと、外食国民にとっては痛い値上げです。

ガソリン価格の高騰が続いている時には、価格調整が入っているようです。コロナ禍支援の一貫で社会保険料の減額が未だに継続、消費者と政府が半々で負担する「コンラクルン（半分こ）」というプロモーションも上限微々たるものながら投入中。最近バンコク都知事が交代となり、筋肉モリモリ新知事が色々と対策を考えてくれることを期待しています。

特に対策していません。ガソリン価格も上がったり下がったり、数十パーツの差を気にしても仕方がないので、運頼みです。物価上昇よりも、アフターコロナで日常生活がほぼ戻ってきていて、外出の機会も増えたので、物欲との仁義なき戦いの日々です。自動掃除機ロボット欲しいな。

田邊さん●北京在住



China

独り身で生活感覚が乏しいので小麦価格とか生活の根幹の部分はよくわからないのですが、対露制裁に加わっていない国ということもあり、スーパーの肉や野菜の値段はまだそんなに変わっていない気がします。今は何より円レートの悪化のほうが生活には痛いです。

物価対策はよくわかりません。物価高よりもむしろ国全体ではゼロコロナ政策の継続による景気後退がよく報道されますが、その辺の景気策はどうなっているのか、また観光業など影響の大きい業界に対する政策が打たれているのか、ちょっと情報不足でわかりません。

とにかく、着任時（2020年9月）に一元15円ほどだった中国元が今では一元20円ほど、日本円換算では単純にすべての商品が33%値上がりしているの、さすがに堪えます。もともと外食が多かったのですが、回数をちょこっと減らしたり、単純な家庭料理（家常小炒）しか頼まなくなったりという感じですかね。出ていくものは出ていきますね…

富真さん●プラハ在住



Czech

8月10日に発表された公式データによると、チェコのインフレ率は7月に前年比17.5%に達し、前月の17.2%から上昇しているようです。ウクライナとロシアの紛争が開始されてから毎週、毎月顕著に物価が上がってきたことを感じています。特に食料品とエネルギーは非常に身近に感じられる上昇です。ガス、電気、牛乳、小麦粉、卵、肉の価格が高くなっています。8月2週目時点で、電気と天然ガスの価格は、それぞれ33.6%と59.8%上昇。チェコが世界に誇るビールも例外ではなく、15%〜20%の値上げが見込まれています。

国の調査ではここ最近給料が5%ほど上がっているということですが、到底このインフレをカバーできません。今後政府がエネルギー価格に対し国民へ補助金を出す計画を立てているようですが、インフレの進み具合では雀の涙程度です。チェコだけではなく、冬が厳しい欧州にとって今年の冬は命を脅かされるほどの混乱になりそうです。

スーパーの割引商品を狙って購入し、時には以前よりまとめ買いをするようになりました。しかし、価格ばかりに気を取られていると内容量の変化に気づきにくいので内容量も併せてチェックするようになりました。物によっては価格が上がりがり内容量も減っているものもあれば、価格はそのまま内容量は減っている、と業者も生き残りの努力が感じられます。

Withコロナに移行し、コロナ前の生活に戻れると思いきや、
物価上昇に、円安と、なかなかの困難続きの世の中。
元の生活に執着せず、新たな生活を模索しなければいけないのかもしれないね。。

6
連載
コーナー

タイの昨今～第14回～



～タイ人はパレード好き～

小6になった息子、お陰様で1年半ぶりに登校授業が再開しました。校内のコロナ対策として、毎週日曜日に自宅で行ったコロナ簡易検査の結果写真を担任に送付すること、マスク着用の義務付けが継続されていますが、基本的な学校生活はコロナ前に戻りつつあります。そんな中、先日帰宅した息子から「今年の運動会ではパレードに参加する！」との話がありました。1年ぶりの運動会開催です。タイの運動会は縦割りで色別対抗、大概の学校では「選手・パレード・応援団・観客（応援）」に分けられ、選手は選抜、日本のように全員が競技に参加

できるわけではありません。運動会当日の種目は基本リレーのみと、日本のように多種多様な種目は皆無ですが、息子の学校では1学期にフットサル、バスケの対抗戦があり、その点数も運動会の得点に加算される模様。さて息子といえば、3年、4年とリレーの選手として出場したものの、今では体重が重くなり、素早さも失って、選抜テストで即脱落。今年は早々にパレード参加に手を挙げた様子です。パレードと言えば、タイではあらゆるイベントの開会式には絶対と言っていいほどの欠かせない存在。

日本であれば、選手が開会式にグラウンドを行進するところ、タイの場合、選手ではなくパレードが登場。さて、パレードの衣装とはいうと、日本のように個性的な手作りなものはほとんどなく、完璧なドレスアップが主流。そのため衣装のほとんどが賃貸。こんな衣装も賃貸できるの？と驚愕することも多々あり。テーマに沿ってどんなドレスアップになるか、運動会は2学期、今から楽しみです。（大畑）



前回の運動会でのパレードの様子



クリスマスフェア開会式ではママたちが大張り切り

7
連載
コーナー

狙え インスタ映え!?

アジア取材雑誌
第 10 回

膨張する“アジア最大のゴミ山”で

こちら、壮絶な悪臭のなかで撮影した1枚です。川にも道路にもあらゆるゴミが散乱し、10階建てのビルに匹敵する高さの巨大な“ゴミ山”が多く点在するこの場所は西ジャワ州のパンタール・グバン。人口1,000万人を超える世界有数のメガシティ・ジャカルタから出るゴミを受け入れている処理場です。生ゴミ、プラスチックゴミ、そして資源ゴミが分別されぬまま1日8,000トン近く送り込まれ、既にその容量は満杯に達しました。処理場の拡張が決まり、周辺の“スカベンジャー”の人たちの家々と、20年近く地域の貧しい子供たちを支援してきた「BGBJ」※というNGOの教育施設が強制退去の対象に。「首都のゴミ処理の一端を担ってきた人たちと、その子供たちが犠牲になるのです」と語るのは、代表のレサさん。自身もこの“ゴミ山”の出身です。1年間の取材で度々言われた、「Face your waste(あなたのゴミに向き合え)」という、彼女の一言がズシリと響きます。子供たちの可能性を奪ったのは私のゴミかもしれない。“インスタ映え”などと容易に喜べない、シビアな現実を突きつけられました。###

※NGO組織 BGBJについての詳細は⇒ <http://www.bgbj.org/>

(谷澤壮一郎/インドネシア在住)

皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。
インドネシアを拠点に、東南アジアでTV番組の企画制作をしています。
コロナ禍の苦節2年を経て、やっと域内の自由な往来が可能になってきました。
ただ、本日はこの国のゴミ処理をめぐる話題でお付き合いください。



タイに駐在して5年目の頃、週末に毎月のように行っていたシーチャン島でいかだ釣りに挑戦。今までになく引きの強さに悪戦苦闘のすえに大物のシマアジをゲット。
自然あふれるこの島はバンコクからも日帰りで行ける癒しのスポット。仕事や都会の喧騒を忘れて、一日ぼーっとするもの良いし、レンタバイクで島をぐるぐる回るのも楽しい。新鮮な海鮮とタイ人の朗らかな心があり、楽しい思い出でしかない大切な島です。



タイ・シーチャン島にて
二〇〇九年十月十日
平田 勝博
釣日

いかだの上で
釣り日和

シーチャン島

ともに感じる東南アジア

8
連載
コーナー

第十回 く懐かしの一枚く

東南アジアへの想いを共に発信していく仲間（国際学部・院同窓生）を募集しています！

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていききたい同窓生（通称ファンクラブ）の皆様など、興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係 大畑（miyukiohata@gmail.com）までご連絡ください。

数多くの同窓生からの声をお待ちしています！

現メンバー（16名）▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研▶田邊知成 96・小池研▶ROMANOV（當眞）里絵 96・佐々木(史)研▶栗林（泊）祥子 96・梅木研▶平田勝博 97・友松研▶本間みずほ 97・田巻研▶原理恵 98・藤田研▶谷澤壮一郎 02・石浜研▶大宮 勇樹 06・マリー研▶知念（高田）知佳 00・田巻研▶諸頭（岩山）晴奈 05・阪本研▶小沼 洋子 97・藤田研▶藤井満春 00・友松研▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研▶駒形麻朋実 17・田巻研▶柴田友美子 06・重田研（※数字は入学年度）